

平成28年8月24日

横須賀市長 上 地 克 明 殿

要 請 書

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

共同代表	呉 東	正 彦
同	新 倉	裕 史
同	小 林	麻 利 子
同	今 野	宏
同	三 影	憲 一

8月21日早朝（現地時間午前5時24分ころ）シンガポール東方の海域で、米海軍イージス駆逐艦ジョン・マケインと、リベリア船籍の石油タンカー、アルニックMCが、衝突事故を起こし、マケインは船尾左舷を損傷し、10名が行方不明、5名が負傷したとのことです。

1月31日には横須賀基地周辺海域で、米海軍イージス巡洋艦アンティータムが、座礁事故を起こし、6月17日には、石廊崎沖で、米海軍イージス駆逐艦フィッツジェラルドが、コンテナ船と衝突事故を起こして7名が死亡してから、間もなく連続してこの衝突事故が起こったことは遺憾であり、米海軍艦艇の安全航行体制に根本的な疑問を抱かざるをえません。

そして、衝突事故によるタンカーの石油への引火、火災等は発生していませんが、このような衝突事故が、より過密な東京湾の浦賀水道で、同様のタンカー等の危険物積載船との間で起こったら、市民の安全を脅かす重大な事態となりかねないことも懸念されます。

そこで私達は、市民の安全を守るため、市長に以下のことを要請いたします。

- 1、米海軍イージス艦アンティータムの座礁事故について、すでに4月に米海軍の司令部事故調査は完了しており、米海軍から情報公開された別紙1の事故調査報告書の要約は、座礁の主原因は人的エラーであるとして、見張りの重大な過失を指摘していますし、星条旗新聞は別紙2のとおり司令部事故調査報告書を米海軍から情報公開法で入手して、報道しており、その内容は本日付読売新聞でも報道されています。

従って市としても、米海軍に対して、司令部事故調査報告書の提供ないし公開を求め

て下さい。またその内容に基づき再発防止策の公表と徹底を文書で申し入れて下さい。

2、米海軍イージス艦フィッツジェラルドの衝突事故について、8月18日、米海軍は、艦長ら3名の解任を発表し、別紙3の8月11日付の追加の予備事故調査報告書を公開しましたが、肝心の見張りの過失等を指摘している予備事故調査報告書が、6月30日頃完成したようであるのに、未だ公開していません。

また、司令部事故調査は、未だ続行されているものと思われます。

これら米海軍の事故調査報告書が公開されず、そこでの指摘事項が共有されていないことが、今回の事故の一因であり、また同様の事故の再発に繋がりがねません。

従って市としても、米海軍に対して、予備事故調査報告書の提供ないし公開を求めて下さい。また1日も早く司令部事故調査を完了させ、それを提供ないし公開することを求めて下さい。

またその内容に基づき再発防止策の公表と徹底を文書で申し入れて下さい。

3、米海軍イージス艦マケインの衝突事故についても、横須賀を母港とするイージス艦の同種の事故ですから、米海軍に対して、1日も早く予備事故調査を完了させ、その提供ないし公開することを求めて下さい。また同様の事故がさらに横須賀周辺で発生することのないよう、その内容に基づき再発防止策の公表と徹底を文書で申し入れて下さい。

4、日本政府に対しても、上記各事故調査結果による事故原因と再発防止体制の公表を、米国、米海軍に対して一刻も早く行うよう、強く申し入れて下さい。